

ウェブ情報アーカイブの普及促進に向けた 利活用シーン等に関する調査研究報告

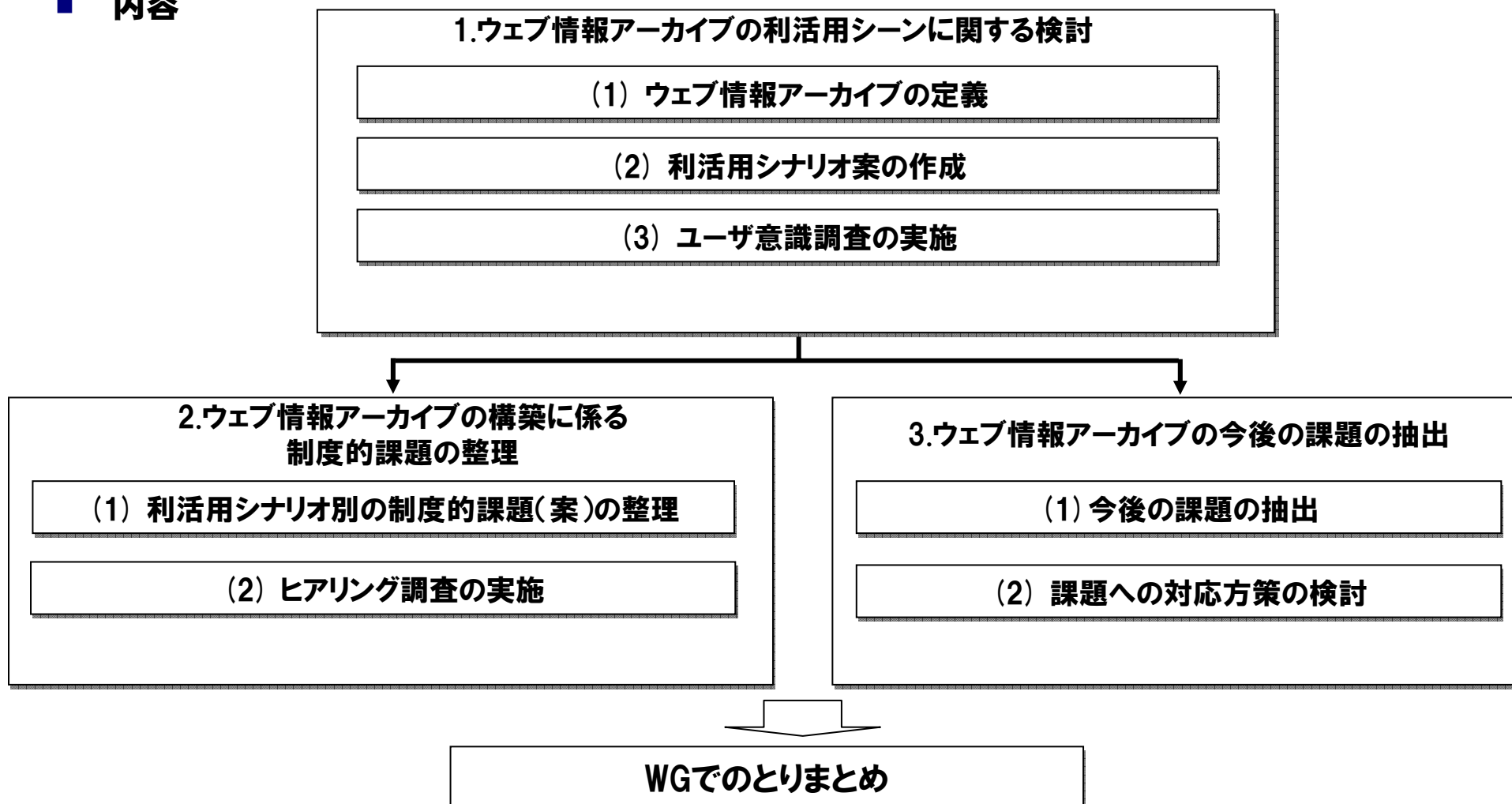
平成18年3月24日

ウェブ情報アーカイブの普及促進に向けた利活用シーン等に関する調査研究報告

■ 目的

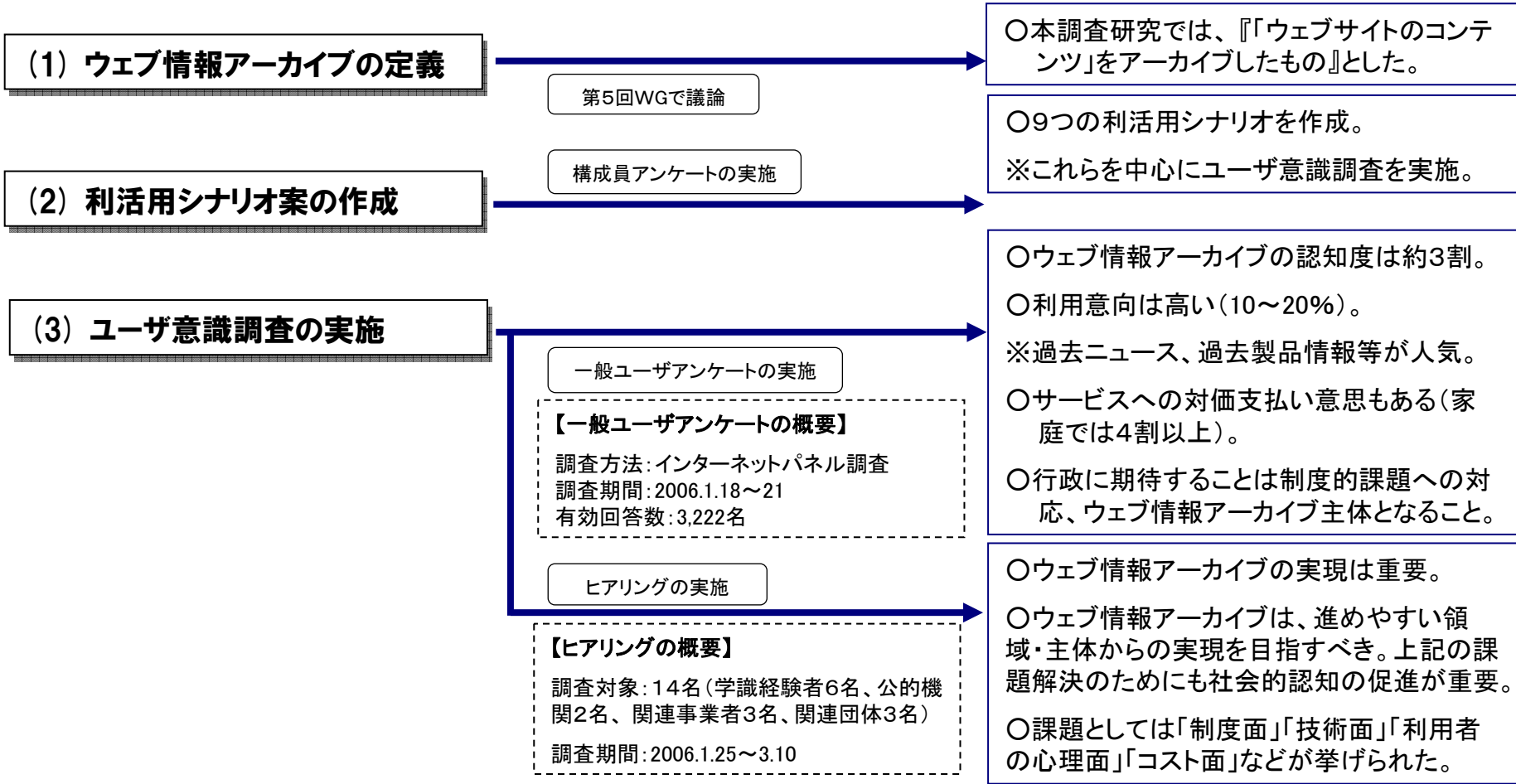
- 平成17年度の実証実験と併行して、ウェブ情報アーカイブの利活用シーンについてより具体的に検討し、実証実験成果の一般への普及促進に資することを目的として実施。

■ 内容



1. ウェブ情報アーカイブの利活用シーンに関する検討

- 本検討の対象とするウェブ情報アーカイブを、「ウェブサイトコンテンツ」をアーカイブしたもの」と定義し、利活用シナリオを作成。
- これらを踏まえ、利用意向や実現のための課題について、一般ユーザアンケート、関係者等へのヒアリングを実施。

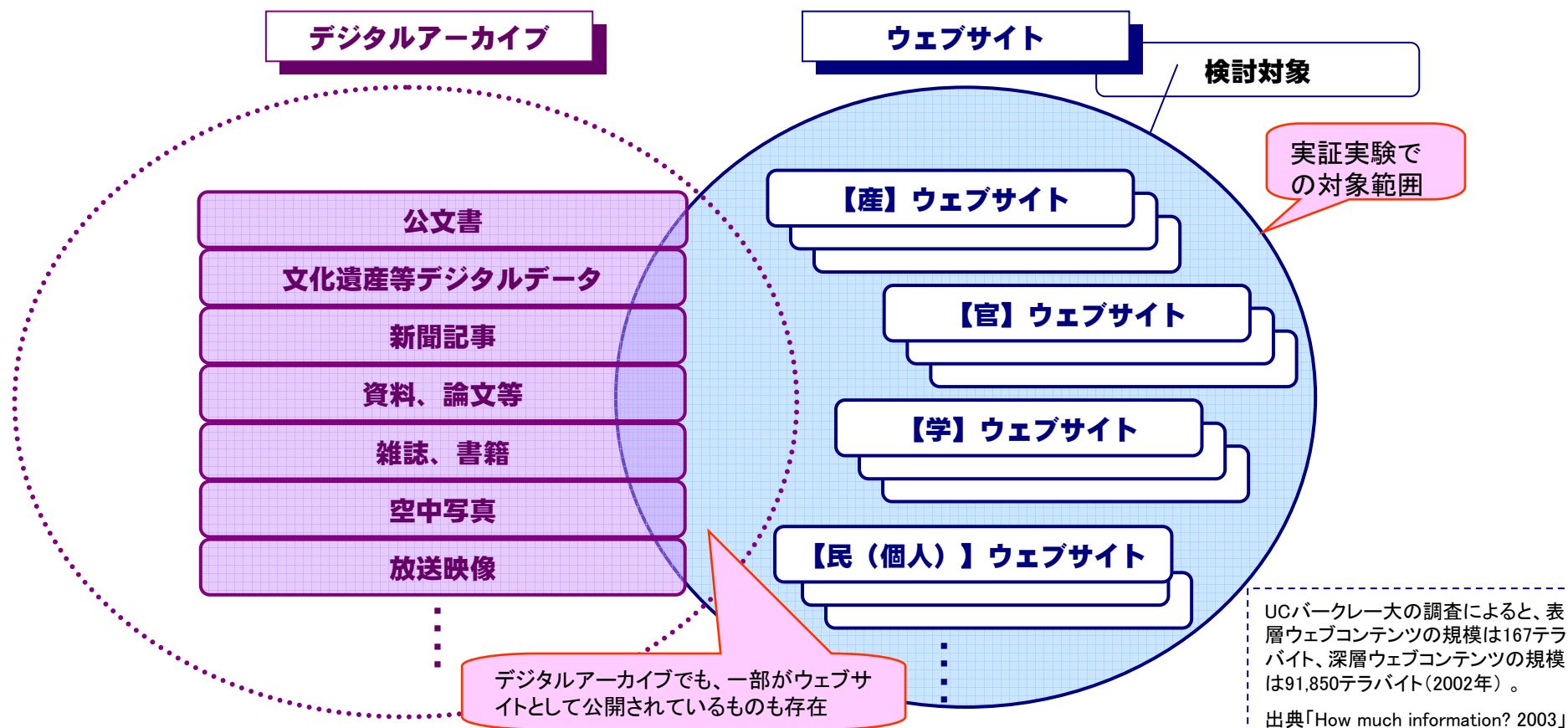


1. ウェブ情報アーカイブの利活用シーンに関する検討

(1) ウェブ情報アーカイブの定義

- 検討対象とするウェブ情報アーカイブは、「ウェブサイトのコンテンツをアーカイブしたもの」と定義した。
- 本調査研究は、利用者の立場から幅広く利活用シーンを検討することが目的であるため、アーカイブの類型を区別することなく検討を進めた。

※アーカイブの類型とは、表層-深層の別、静的-動的の別、収集ドメインの範囲といったコンテンツの特性、あるいは、短期-長期といったアーカイブ期間等による区別。

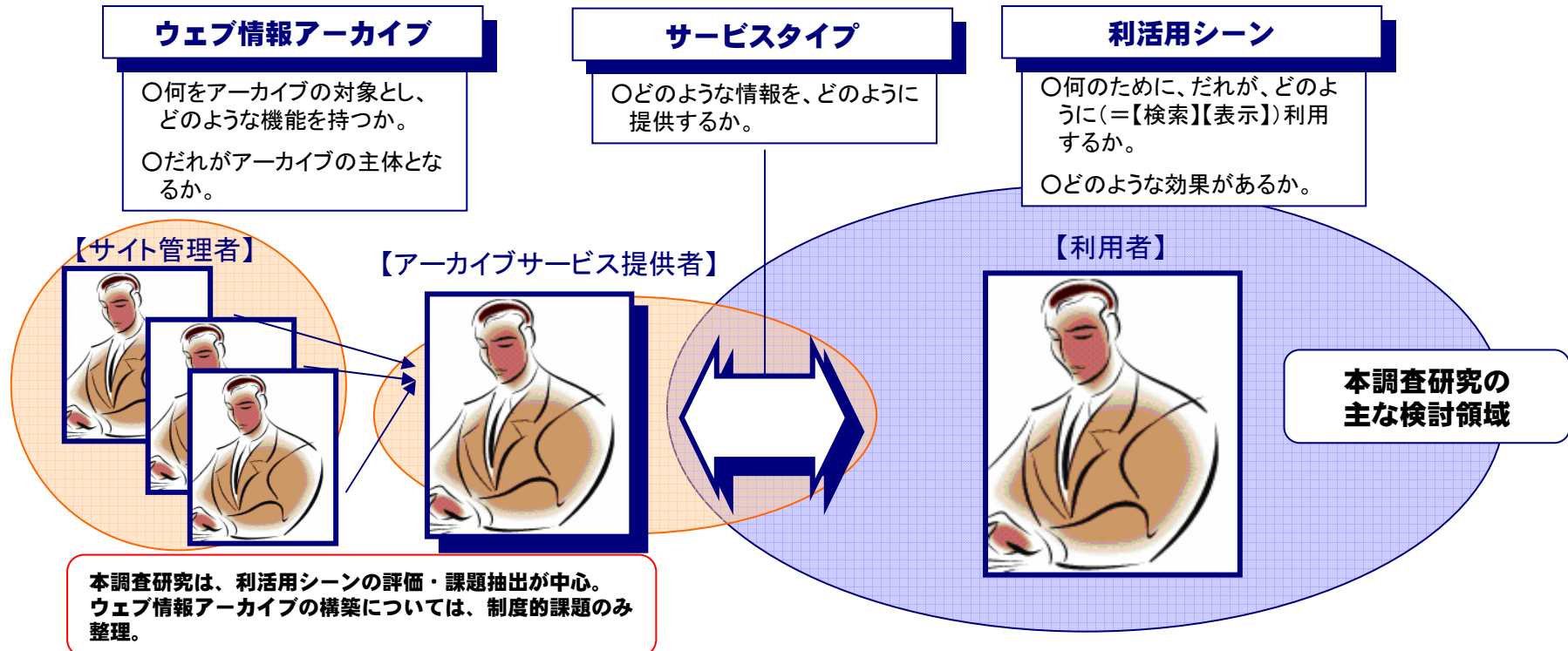


1. ウェブ情報アーカイブの利活用シーンに関する検討

(2) 利活用シナリオの作成

- ウェブ情報アーカイブの利用者、サービス提供者、サイト管理者の3つの主体を考慮し、「サービスタイプ」「利活用シーン」「ウェブ情報アーカイブ(本体)」という構成要素で具体的な利活用シナリオを作成。
- 一般利用者アンケートでは、産業・教育・趣味等の「サービスタイプ分類」ごとに、それぞれ具体的な「利活用シーン」を作成・提示し、それらに対する評価と課題を集約。
- ヒアリング調査では、利活用シーンに対する評価に加え、「ウェブ情報アーカイブ」の課題、今後の展開の方向に関する意見を聴取。

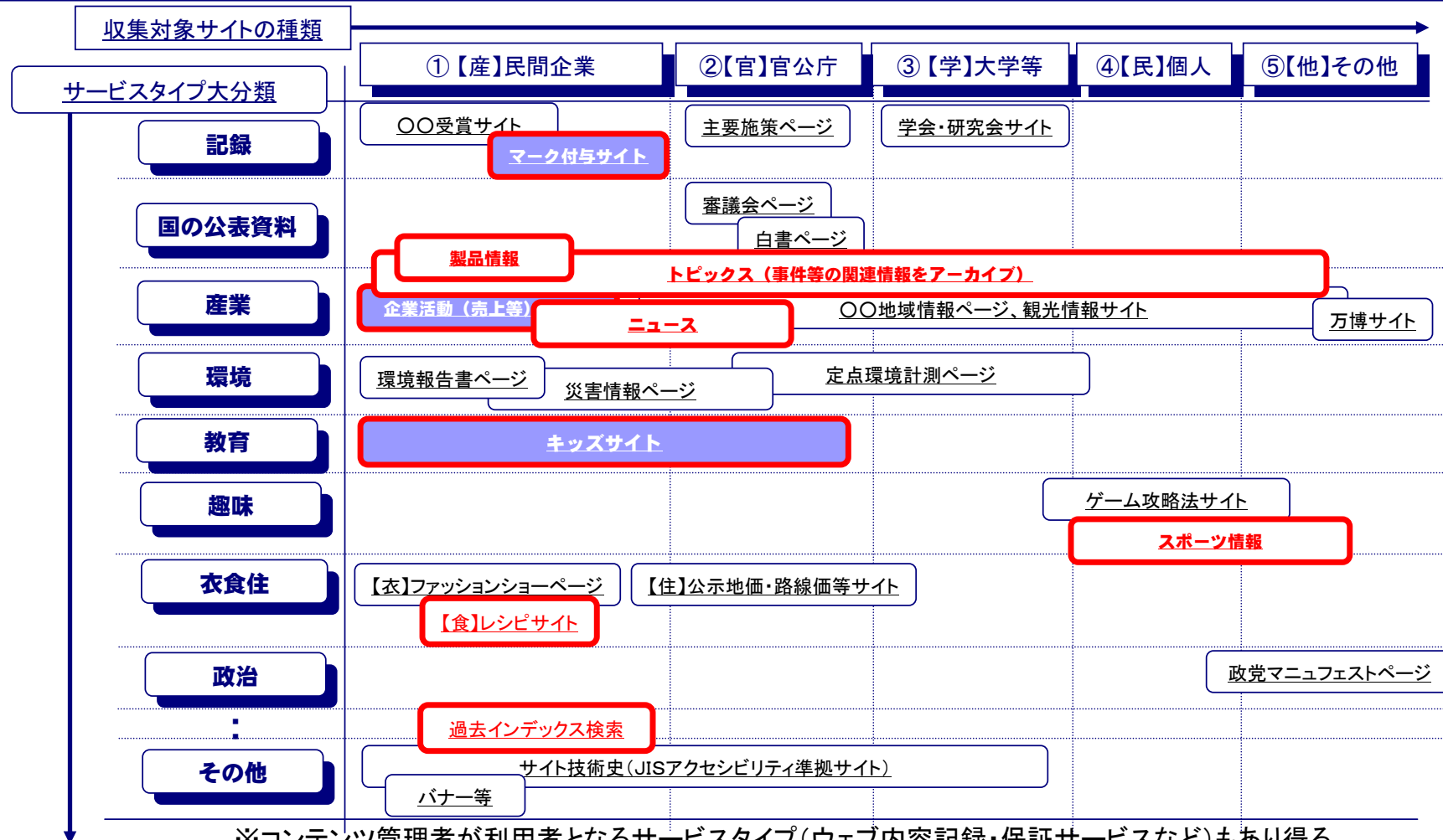
ウェブ情報アーカイブの利活用シナリオ



1. ウェブ情報アーカイブの利活用シーンに関する検討

(2) 利活用シナリオの作成 サービスタイプの想定

- アーカイブ対象となるウェブサイトの種類(管理者別)、さらに想定しうるサービスタイプの大分類を整理し、コンテンツ管理者及び利用者を幅広く網羅できるよう、9つのサービスタイプ(赤枠)を選定し、具体的な利活用シナリオを作成した。
※その他の16のサービスタイプ(青枠)についても一般利用者アンケートで評価を実施。



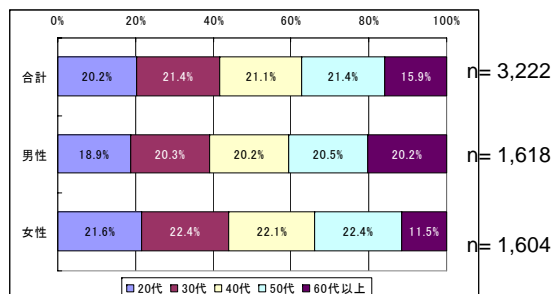
※コンテンツ管理者が利用者となるサービスタイプ(ウェブ内容記録・保証サービスなど)もあり得る

1. ウェブ情報アーカイブの利活用シーンに関する検討 (3) ユーザ意識調査の実施 一般ユーザアンケート

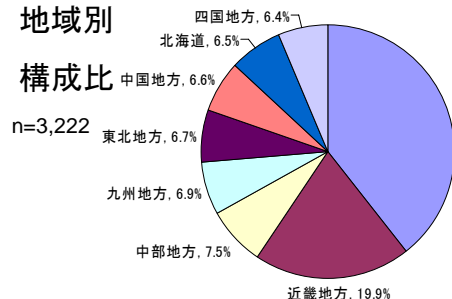
① インターネット利用状況と課題

- 男女、年齢、全国8地域別にサンプリングし、それぞれで分析可能な回答数を確保。
- 1. 日常のインターネットの利用状況、2. サービス利用意向、3. ウェブ情報アーカイブの認知度等について3,224名の意見を集約。
- 1. 利用状況では、家庭でインターネットを「**ほぼ毎日利用する**」割合が約9割。また家庭では7割以上（職場では5割以上）が、「**ブックマークは11個以上**」となっており、対象者は日常的にインターネットをよく活用している。
- インターネット利用上の課題として、ウェブ情報アーカイブが解決に資する「**リンク切れ**」「**ページがなくなる**」「**少し前の情報がない(新しい情報ばかり)**」との声がある。

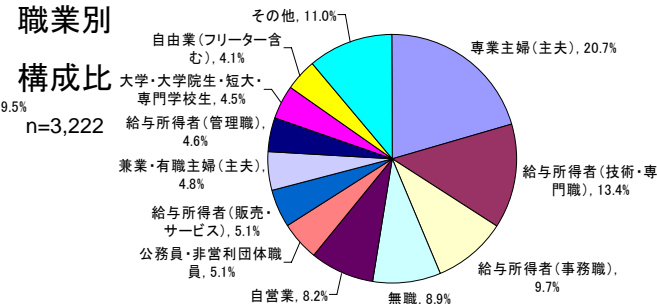
男女別
構成比



地域別
構成比

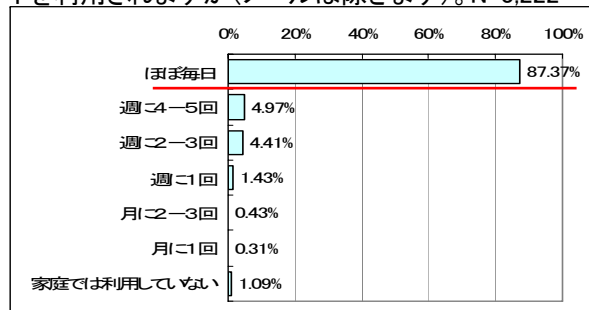


職業別
構成比

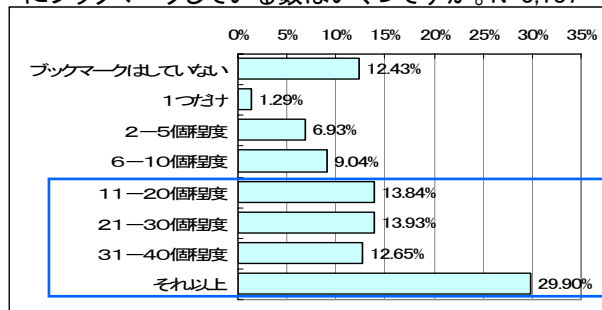


1. 日常のインターネット利用状況

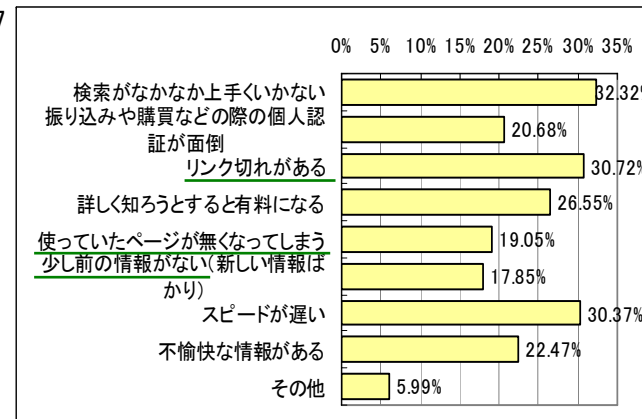
(SA)問2-1あなたはご家庭で、どの程度インターネットを利用されますか(メールは除きます)。N=3,222



(SA)問2-3あなたがご家庭でインターネットブラウザにブックマークしている数はいくつですか。N=3,187



(MA)問3職場とご家庭の両方を通じて、インターネットを利用して、不便だと感じのことは何ですか。【3つまで】 N=3,187



1. ウェブ情報アーカイブの利活用シーンに関する検討

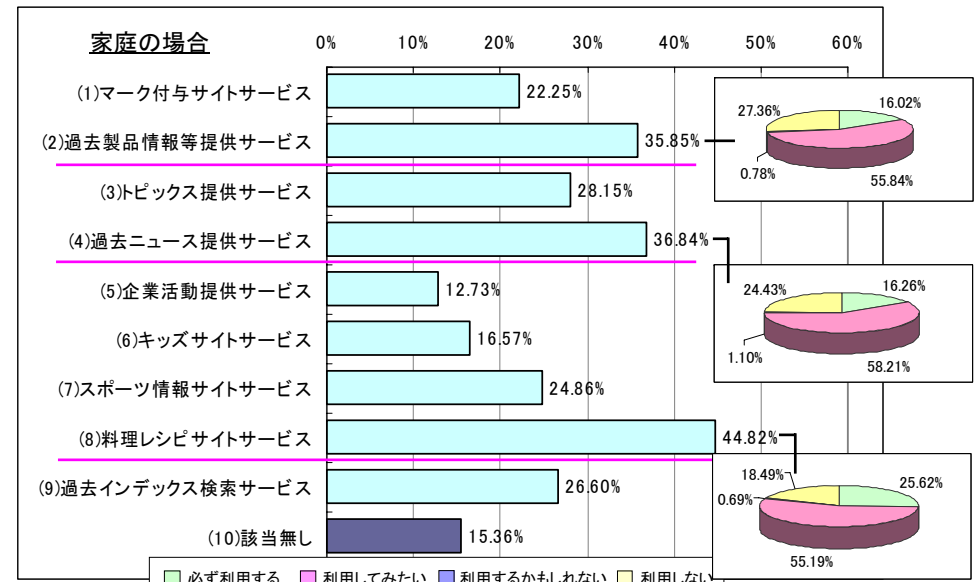
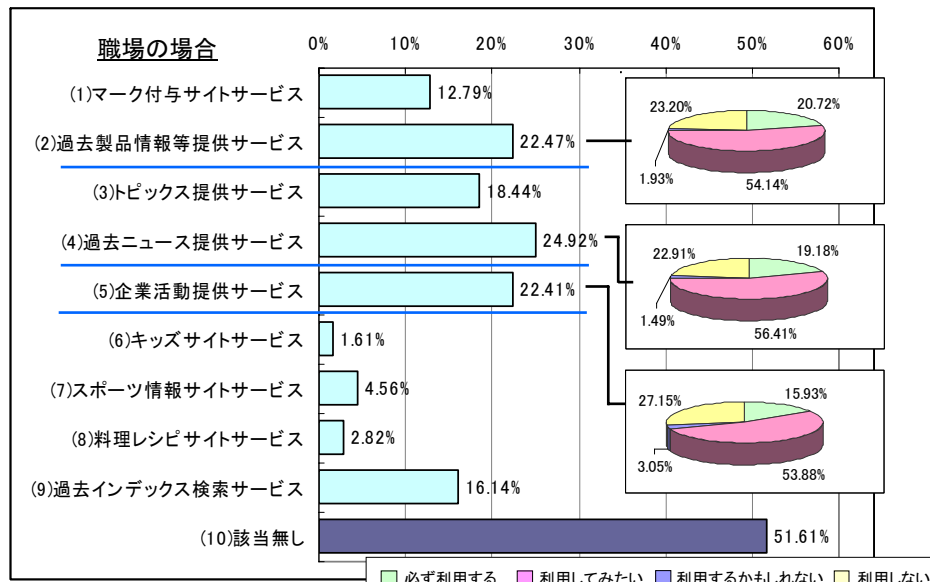
(3) ユーザ意識調査の実施 一般ユーザアンケート

② サービスの利用意向

- 利活用シナリオを作成した9つのサービスタイプについて、1つでも「関心がある」とする回答(該当なし以外)は、職場では約半数、家庭では8割を超え、高いニーズが確認できた。
- うち、ニーズの高いものは、職場では「過去ニュース提供」、「過去製品情報提供」、「企業活動」の順。家庭では「料理レシピ提供」、「過去ニュース提供」、「過去製品情報提供」。これらの関心度は20%を超える。
- さらに利活用シナリオを閲覧後に利用意向を尋ねたところ、概ね3/4が「利用してみたい」以上の高い利用意向を示している(円グラフ)。

| マーク付与サイトアーカイブ | 過去製品情報等サイトアーカイブ | トピックス(事件等の関連情報)サイトアーカイブ | ニュースサイトアーカイブ | 企業活動(売上等)アーカイブ | キッズサイトアーカイブ | サッカー情報アーカイブ | 料理レシピアーカイブ | 過去インデックス検索サイト |
|------------------------|---------------------------|----------------------------|---------------------------|-------------------------|------------------------|-------------------|--------------|-------------------------------|
| 信頼性マーク等が付与されたサイトを保存・提供 | 販売終了商品・サービス等についての情報を保存・提供 | 大きな社会的事件等についての情報を一元的に保存・提供 | 1~2週間前の短期のニュースコンテンツを保存・提供 | 民間企業の活動(売上、店舗展開等)を保存・提供 | 教育教材となる官民のキッズサイトを保存・提供 | マニア向けの詳細な情報を保存・提供 | 料理のレシピを保存・提供 | 過去の「ポータルサイトインデックス」での検索サービスを提供 |

(MA)問4 次のようなサービスが開始されたとします。ご興味・ご関心のあるサービスを、職場の場合、ご家庭の場合、それぞれ別々に選んでください。N=3,222
 (SA)(問5) 関心があるサービスの利用意向 必ず利用する／利用してみたい／利用するかも知れない／利用しない。



1. ウェブ情報アーカイブの利活用シーンに関する検討

(3) ユーザ意識調査の実施 一般ユーザアンケート

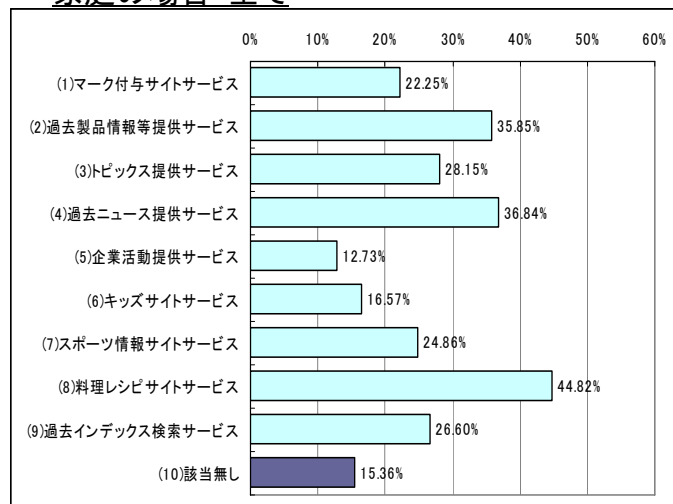
② サービスの利用意向

- 利活用に関心ある割合が高い家庭での属性別特徴をみた。
- 家庭における属性別の利活用への関心は男女・年齢の別なく高い。また、ウェブへの接触時間が増えつつあると想定される60代以上で高いことが特徴である。
- 60代では、「トピックス」「過去ニュース提供」などの情報を深堀するサービスへのニーズが高いことがわかる。
- また30代の子育て世代で「キッズサイト」へのニーズが高く、この世代を通じて、子供世代でのアーカイブの利活用が進む可能性を示している。

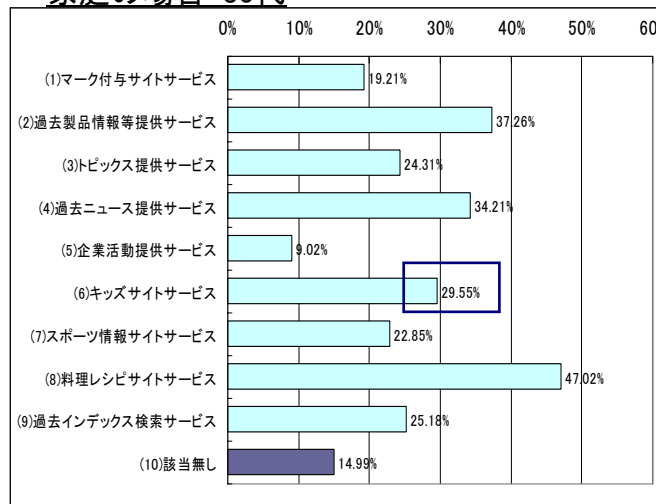
| 関心がある割合 (家庭で) | 全体 | 性別 | | 年代別 | | | | |
|------------------|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | 男 | 女 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
| | | 84.6% | 83.7% | 85.6% | 81.9% | 85.0% | 83.1% | 84.6% |

(MA)問4 次のようなサービスが開始されたとします。ご興味・ご関心のあるサービスを、職場の場合、ご家庭の場合、それぞれ別々に選んでください。N=3,222

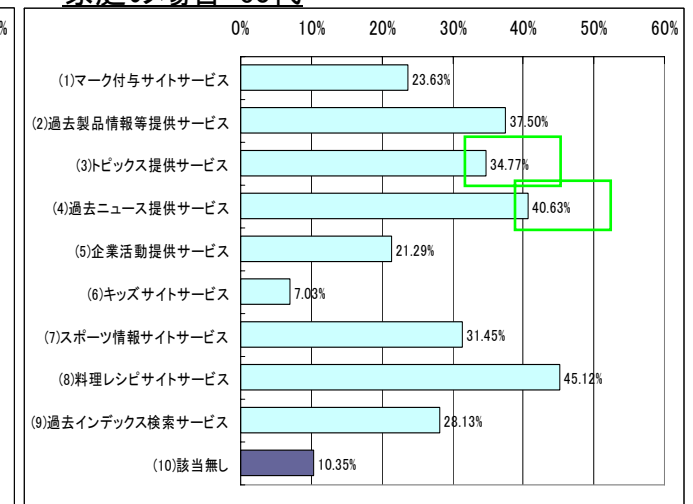
家庭の場合・全て



家庭の場合・30代



家庭の場合・60代



- 1. 日常のインターネット利用状況
- 2. サービス利用意向
- 3. ウェブ情報アーカイブの認知度等

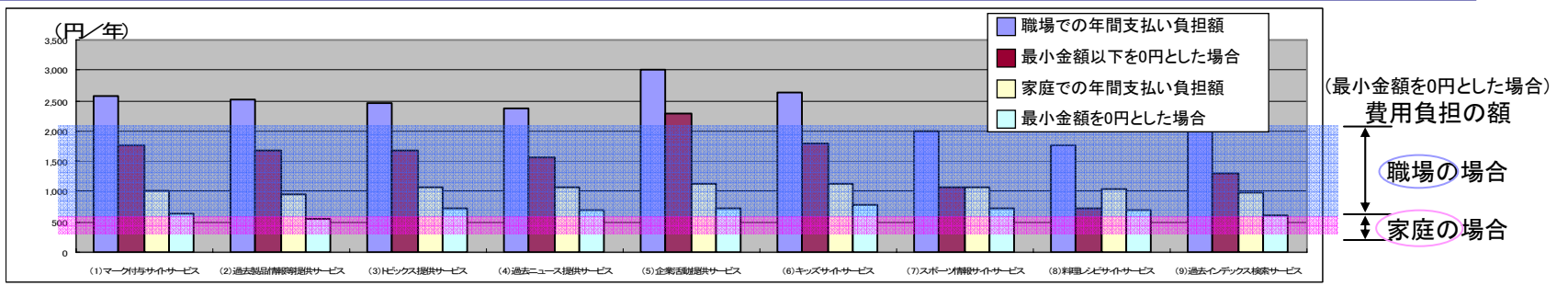
1. ウェブ情報アーカイブの利活用シーンに関する検討

(3) ユーザ意識調査の実施 一般ユーザアンケート

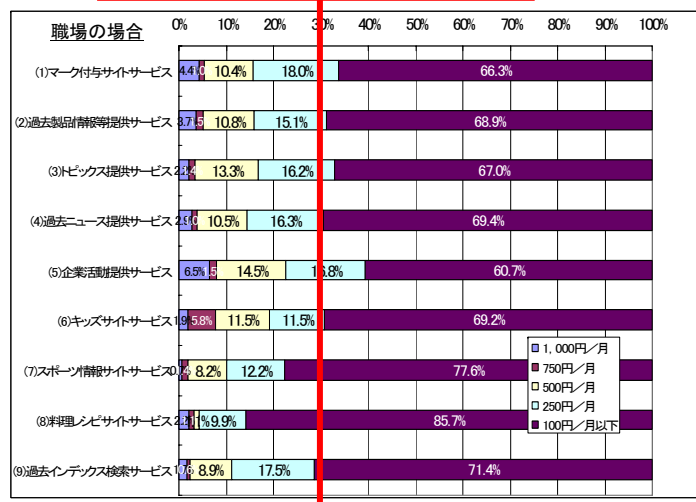
③費用負担

- 関心のあるサービスに対して、費用負担を尋ねたところ、職場では少なくとも3割程度は費用負担を受け入れると回答された。家庭では約4割が受け入れるとしている(最小金額以下の回答を除く割合)。
 - 費用負担をしてもよいとの額をサービスごとに算定すると、職場の場合で約700~1,800円/年、家庭の場合で概ねどのサービスも約500~700円/年程度となる。
- ※全国4,000万世帯とすると、利用意向100%の場合で、500円/年は、市場規模200億円となる。先にみた利用意向は、関心層が全体の20%、うち利用する層が75%(3/4)であるため、一つのサービスの需要規模は年当たり十億円単位と見込まれる。

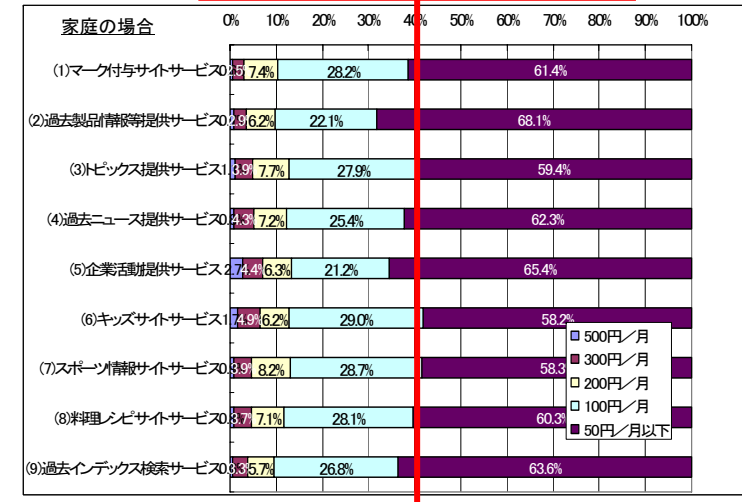
(MA)問5それぞれのサービスを利用するために料金が必要となった場合、どの程度ならご負担してもよいと感じますか。(月当たり料金の場合)



職場の場合 少なくとも費用負担を受け入れる割合



家庭の場合 少なくとも費用負担を受け入れる割合



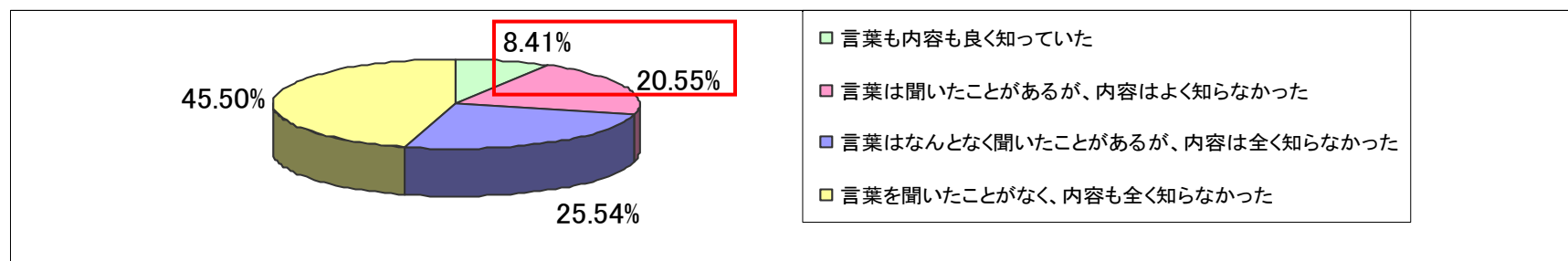
1. ウェブ情報アーカイブの利活用シーンに関する検討

(3) ユーザ意識調査の実施 一般ユーザアンケート

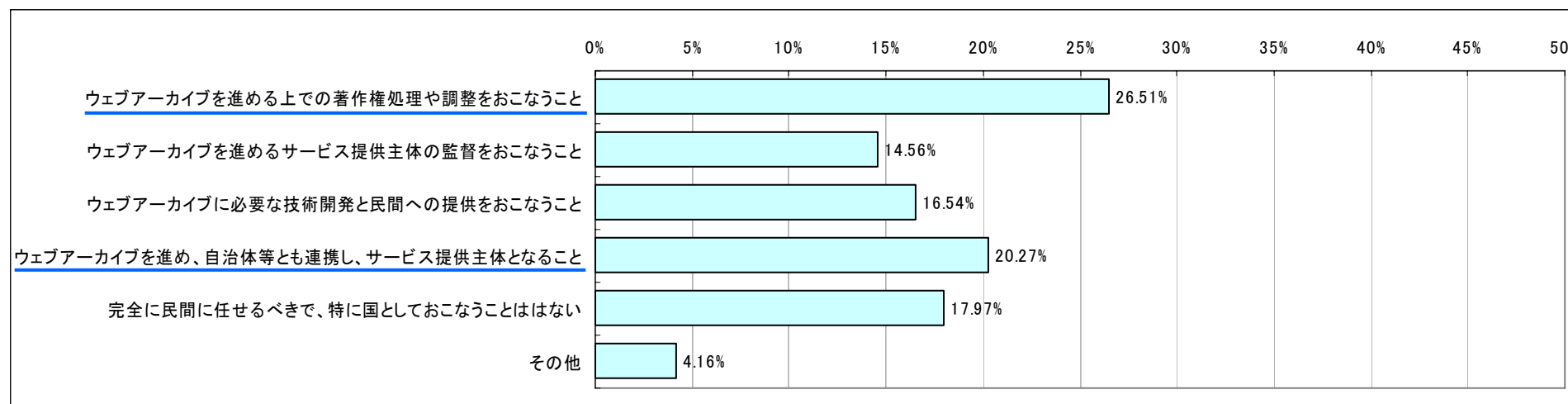
④ 認知度と行政への期待

- ウェブ情報アーカイブの認知度は、**約3割**(言葉は聞いたことがあるを含む)。これは昨年度調査結果より高い。
- 国の施策としては、著作権処理や調整、自治体等との連携でサービス提供主体となるべきとの要望が上位。

(SA)問7このような「過去のサイトの情報を使ったサービス」を行うために情報を蓄積する仕組みを「ウェブ情報アーカイブ」と言います。この言葉をご存じでしたか。N=3,222



(SA)問8「ウェブ情報アーカイブ」の普及・促進策のうち、国の施策として有意義であると感じのものは何ですか。N=3,222



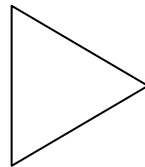
1. ウェブ情報アーカイブの利活用シーンに関する検討

(3) ユーザ意識調査の実施 ヒアリングの結果

- ウェブ情報アーカイブについての現状認識では、ウェブ情報アーカイブの重要性が指摘されるとともに、「制度面」、「技術面」、「利用者の心理面」、「コスト面」等の課題が挙げられた。また、これまでのデータベースサービスとの違いに留意していくことが重要との指摘もあった。
- ウェブ情報アーカイブの今後の進展に向けては、「分散型収集」、「ウェブ情報アーカイブの収集範囲」の限定といった、進めやすい領域から実現すべきなどの意見があった。「アーカイブ主体」についても「地方図書館」を活かして、進めやすいところから進めるべきとの指摘があった。また、社会的理解の促進が重要との指摘が多かった。(なお、地方図書館等は、家庭、職場と並ぶ利活用の場としても重要との指摘があった。)
- ウェブ情報アーカイブの利活用を勧めるには、「検索方法」の工夫が重要との指摘があった。
- ヒアリング調査における評価の高い利活用シナリオは、概ね一般利用者アンケート結果と同様であった。

現状認識

- (1)ウェブ情報アーカイブの重要性
- (2)ウェブ情報アーカイブ推進の課題
 - ①制度面
 - ②技術面
 - ③利用者の心理面
 - ④コスト面
- (3)その他
 - ・データベースサービスとの関係整理



進展に向けて

- (1)分散型収集
- (2)ウェブ情報アーカイブの収集範囲
- (3)アーカイブ主体
- (4)地方図書館の役割
- (5)社会的理解の促進
- (6)検索方法

利活用シナリオ(アーカイブニーズ)

企業情報、過去製品情報、料理レシピ、スポーツ、ニュース、トピック等が比較的考えやすい。

※その他にも多くのご提案を頂いた。

1. ウェブ情報アーカイブの利活用シーンに関する検討

(3) ユーザ意識調査の実施 ヒアリングの結果 現状認識について

(1) ウェブ情報アーカイブの重要性

- ・ウェブ情報アーカイブの重要性は多くの方が認識。
- ・大学で研究を進める上でも、まず日々消え去るウェブ情報を集めることが先決。
- ・過去のアンケート調査でもキャッシュ機能に対するニーズが高く、アーカイブが望まれているとの指摘。

(2) ウェブ情報アーカイブ推進の課題

- ・フェアユースの規定がある米国と異なり、わが国でウェブ情報アーカイブを推進していくためには、著作に対する社会的な通念がコンテンツ収集の高いハードル。
- ・現在行っている検索サービスと同じ対象でのウェブ情報アーカイブサービスを行うためには、バルク収集が前提。その場合には制度的課題が大きなバリアー。

(3) その他

- ・現在既にビジネスモデルが確立している専門的データベースサービスとのすみわけも必要。

1. ウェブ情報アーカイブの利活用シーンに関する検討

(3) ユーザ意識調査の実施 ヒアリングの結果 進展に向けて

(1)分散型収集

- ・分散型で収集し、ウェブ情報アーカイブを実現していくことが重要。
- ・国立国会図書館だけでなく、大学、NPO、個人等でもウェブ情報を収集していくことができればよい。
- ・各機関や団体がどのような分野を収集しているかを明確にし、役割分担するなどの体制構築が必要。

(2)ウェブ情報アーカイブの収集範囲

- ・まずは、中央省庁、地方自治体といった行政や主要民間企業のアーカイブから開始すればよい。
- ・将来的には社会的理解を進めた上で、原則としてバルク収集を目指すべき。

(3)アーカイブ主体

- ・アーカイブ主体としてはNPO、企業、大学、学術研究機関も考えられる。これらアーカイブ主体間の連携、例えば横断的検索等をどのように確保していくか等が課題。
- ・ウェブ情報アーカイブは、公共性、中立性を有する機関で無料でサービスを提供すべき。

(4)地方図書館の役割

- ・国立国会図書館だけでなく、地方の図書館も連携した取り組みができればよい。
- ・地方図書館では、郷土資料を網羅的に収集することを方針とし、ウェブ情報についても既にその対象としている例あり。

(5)社会的理解の促進

- ・多くの方がウェブ情報アーカイブについての幅広い社会的理解を得ていくことが重要であると指摘。
- ・社会的理解が得られることによって、社会通念や制度的視点からのバリアーも低くなる。
- ・ウェブ情報アーカイブの利活用イメージがわかるような試行サービスの提供や広報の場の拡大が重要。

(6)検索方法

- ・ウェブ情報アーカイブの利活用を勧めるには、使いやすい検索方法が重要。ナビゲーション機能の充実や個々人の検索特性に合致したパーソナラズや動画や写真についても容易に検索できることが望まれる。

1. ウェブ情報アーカイブの利活用シーンに関する検討

(3) ユーザ意識調査の実施 ヒアリングの結果 利活用シナリオ (アーカイブニーズ)

- ・作成した9つの利活用シナリオについては、企業情報、過去製品、料理、スポーツ、ニュース、トピック等が比較的有望であるとの指摘。
- ・その他、リコール、個人の趣味/実用サイトで消滅する可能性がある力作サイト等、多様な提案をいただいた。

(1)提示した利活用シナリオに関して

以下のようなアーカイブは比較的有望

- ・情報に時間軸を持ち込む。時間軸をどう入れ込むかが課題。料理のHPは時間軸とあまり関係ないのではないか。
- ・今後、長期間ストック(例えば100年間)していけば、料理やスポーツもおもしろくなる。
- ・グーグル・ビデオなどで見たいビデオがあり、検索するとなくなっていることがあった。こうした検索も時系列的な厚みを増していくことが望まれる。
- ・地域の視点からはイベント・祭等、文化的なものがアーカイブの重要な対象と考える。
- ・マークについてはHP上のことに関してクレームが出たときに、ウェブ情報アーカイブによって過去のHPがどうなっていたかがわかれば便利。

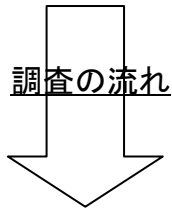
(2)その他の利活用シナリオに関して

- ・リコールに関するアーカイブ
- ・個人の趣味/実用サイトで消滅する可能性がある力作サイト
- ・国のトピックに関するアーカイブ
- ・大学で公表している入学試験のデータや就職活動(企業採用ページ)に関するアーカイブ
- ・事業所単位の環境サービスの状況に関するアーカイブ
- ・バイオハザードの情報に関するアーカイブ
- ・過去の犯罪がわかったり、過去に戻って証拠を検証できる分野のアーカイブ
- ・時系列的な白書のアーカイブ(省庁の再編や統合があって、連続的に一覧性をもって見るのが難しい)
- ・ソフトウェアのバージョンアップに関するアーカイブ
- ・全国の学生や教授の論文情報に関するアーカイブ
- ・研究開発の雑誌・論文・レポートに関するアーカイブ(論文等に参照のURLをつけても消えてしまう)
- ・大学のウェブ上の研究関連資料のアーカイブ
- ・ウェブ上の各企業・団体の環境経営報告書のアーカイブ
- ・地域を連想させるキーワードに関するアーカイブ
- ・里山や隠し湯等のマイナーな地域情報に関するアーカイブ
- ・廃校でなくなった学校、合併でなくなった自治体や企業に関する情報のアーカイブ
- ・各地域の合併協議会をひとつにまとめてアーカイブ(賛成、反対のサイトも収集)
- ・マイナーな情報(地方紙、CATV等)のアーカイブ

2. ウェブ情報アーカイブの構築に係る制度的課題の整理

- ウェブ情報アーカイブについての制度的課題等を網羅的に整理した上で、9つの利活用シナリオごとに課題を具体的に検討した。
- さらに制度的課題に大きく関わるサイト管理者及びアーカイブ主体の特徴から、3つの利活用シナリオを抽出し、法律の専門家等を対象にヒアリング調査を実施。

(1) 利活用シナリオ別の制度的課題(案)の整理



国内外のアーカイブ関連の取組事例(ウェイバックマシン、WARP、電子出版物収集、検索エンジンのキャッシュなど)において指摘されている課題等の整理

アーカイブ構築時に関連すると考えられる制度(知的財産や個人情報保護の観点など)の整理

制度的課題としては以下のようなものが存在。

- ・コンテンツに係る各種権利の権利処理
- ・違法・有害コンテンツの閲覧可能性

など

(2) ヒアリング調査の実施

【ヒアリングの概要】

調査対象:3名(法律専門家、情報通信専門家)

調査期間:2006.2.22~3.3

9つの利活用シナリオから、ニーズを踏まえつつ、サイト管理者とアーカイブ主体の関係に特徴を持つ3つの利活用シナリオを抽出して詳細にヒアリングを実施

シナリオ1 マーク付与サイトアーカイブ

サイト管理者数は小、想定アーカイブ主体と関係あり

シナリオ2 過去製品情報等サイトアーカイブ

サイト管理者数は大、想定アーカイブ主体はサイト管理者の業界団体

シナリオ3 トピックスサイトアーカイブ

サイト管理者は不特定多数、想定アーカイブ主体と関係なし

ヒアリングの主な意見としては以下のようなものが存在。

- ・厳密には、各シナリオにおいて、権利処理などの制度的課題が存在(課題の大小はある)。
- ・ウェブ情報アーカイブの構築の仕方、アーカイブするコンテンツの内容により、上記課題はクリア可能。その意味では、利活用シナリオ別のアーカイブを検討することは現実的な手法である。

2. ウェブ情報アーカイブの構築に係る制度的課題の整理

(1) 利活用シナリオ別の制度的課題(案)の整理

- コンテンツ等の権利処理などの制度的課題、コンテンツの正確性／完全性の欠如可能性などのその他の課題が存在する。
- コンテンツ等の権利処理、正確性／完全性の欠如可能性、どのサイト管理者のコンテンツをアーカイブするかという選定基準も課題となる。
- 違法・有害コンテンツの閲覧可能性、コンテンツ制作者の心理的抵抗感などは、シナリオによって課題の大きさが異なる(サイト管理者が多伎に渡ると想定されるシナリオ3では大きな課題となる)。

| 制度的課題等 | | マーク付与サイトアーカイブ 信頼性マーク等が付与されたサイトを 保存・提供 | 過去製品情報等サイトアーカイブ 販売終了商品・サービス等についての情 報を保存・提供 | トピックスサイトアーカイブ 大きな社会的事件等についての情報を 一元的に保存・提供 |
|---------|---|--|---|--|
| 制度的課題 | コンテンツ等の権利処理 (第三者の権利も含む) | <ul style="list-style-type: none"> ・ マークが付与されたコンテンツ制作者等との権利処理。 ・ 第三者の文章、写真などが関係するケースがあり得る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 製品メーカ等のコンテンツ制作者等との権利処理。 ・ 第三者の文章、写真などが関係するケースがあり得る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 報道機関等のコンテンツ制作者・情報配信元等との権利処理。 ・ 第三者の記事、写真、映像などが関係するケースがあり得る。 |
| | アーカイブ実施主体における個人情報の保護 | <ul style="list-style-type: none"> ・ アーカイブコンテンツに個人情報が含まれるような場合、保護の必要性が生じる可能性があり得る。 | <p style="text-align: center;">—</p> <p>(コンテンツに個人情報が含まれる可能性低)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ アーカイブコンテンツに個人情報が含まれるような場合、保護の必要性が生じる可能性があり得る。 |
| | 違法・有害コンテンツの閲覧等可能性 | <p style="text-align: center;">—</p> <p>(認証なしに勝手にマークを付与した違法・有害なコンテンツをアーカイブするような場合は除く)</p> | <p style="text-align: center;">—</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人が制作したコンテンツなどもアーカイブする場合、違法・有害なコンテンツ(例:名誉毀損情報等)をアーカイブする可能性あり。 |
| その他の課題 | 正確性の欠如可能性 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 誤った販売価格情報等をアーカイブ/提供する可能性あり。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 誤情報が掲載された製品カタログ、誤った希望小売価格情報、不具合のあるソフトウェア(例:ドライバ)等がアーカイブ/提供する可能性あり。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 誤報道情報等をアーカイブ/提供する可能性あり。 |
| | 完全性の欠如可能性 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 商品の利用条件、利用環境、取扱注意事項等がアーカイブ/漏れにより提供されない可能性あり。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 製品の利用条件、利用環境、取扱注意事項等がアーカイブ/漏れにより提供されない可能性あり。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 長所・短所の両方について述べているにも関わらず、長所を記述した部分のアーカイブ/漏れにより短所を記述した部分のみがアーカイブ/提供される可能性があり。 |
| | コンテンツ制作者等の心理的抵抗感(消したい過去情報の提供、情報発信の萎縮) | <p style="text-align: center;">—</p> | <p style="text-align: center;">—</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 誤提供情報等を撤回・消去したいという場合が存在する可能性あり。 |
| | 格納対象コンテンツの選定基準・特定事業者の宣伝可能性(公的主体がアーカイブ主体の場合) | <ul style="list-style-type: none"> ・ アーカイブ対象とするオンラインマークの選定基準。 ・ 特定の企業、Web ショップ等を宣伝しているという批判が出る可能性あり。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ アーカイブ対象とする製品メーカ及び対象製品の選定基準。 ・ 特定の製品メーカ・製品をしているという批判が出る可能性あり。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ アーカイブ対象とするトピックス及び収集対象とするサイトの選定基準。 ・ 特定商品・サービスがトピックとして選択された場合、特定商品等を宣伝しているという批判が出る可能性あり。 |
| ヒアリング結果 | <p>マーク付与主体を通じてウェブ情報アーカイブを構築するという体制であれば、マーク付与時の契約等でサイト管理者との間でコンテンツの権利処理等の課題がクリアできるため、実現性が高い。</p> | | <p>情報を広く提供することを目的とする製品カタログ等の製品情報の性格から、コンテンツの権利処理等の課題がクリアできる可能性が高く、実現性が高い。</p> | <p>サービスの有用性を高めるためにはトピックに関する報道機関のコンテンツがアーカイブされることが望ましいと考えられるが、それらは新聞DB等の既存ビジネスで提供されており、対価なくこれを収集・権利処理することは困難。また、個人が制作したコンテンツをアーカイブする場合、効率的な権利処理等を可能とするスキームの構築は困難。以上から利用者のニーズは高いものの、実現のためのハードルは高いと考えられる。</p> |

3. ウェブ情報アーカイブ今後の課題の抽出 (1) 今後の課題の抽出

- これまでの検討から、利用及び負担の両面からみてユーザが存在すること、各種図書館を含む公的主体も含めて分散型でのウェブ情報アーカイブの実現が重要であること、さらに必要性・有効性の社会的コンセンサスが必要との声大きい。
- これらを踏まえ、わが国でウェブ情報アーカイブが普及していくための課題を4つに整理した。

ウェブ情報アーカイブを取り巻く状況の整理

サービスタイプ

・適切なサービスタイプを設定し、利活用シーンを実現すれば、ユーザニーズ及び料金負担意向はある。【アンケート調査】

・収集する情報については、ユーザによって様々な要望がある。
【アンケート調査 自由回答】

利活用シーン

・検索方法、表示については概ね提示した方法でユーザニーズはみたせる。【アンケート調査】
・ただし実証実験等で具体的なユーザビリティと有効性を確認することが必要。【ヒアリング調査】

ウェブ情報アーカイブ

・アーカイブの対象によって、権利調整にかかる様々なコストが大きく異なる。【制度的課題 ヒアリング調査】
・アーカイブの対象によって、公的主体、その他主体等で分担する工夫（分散型）。【ヒアリング調査】
・アーカイブ主体のサービス実現に向けたハードルを下げるためにも、必要性・有効性の国民的コンセンサスが重要。【ヒアリング調査】
・またアーカイブ主体として、図書館等のサイト管理者の合意が得やすい主体から実現することが重要。【ヒアリング調査】

普及のための課題

ユーザニーズの高いサービスタイプをどのように実現していくか。

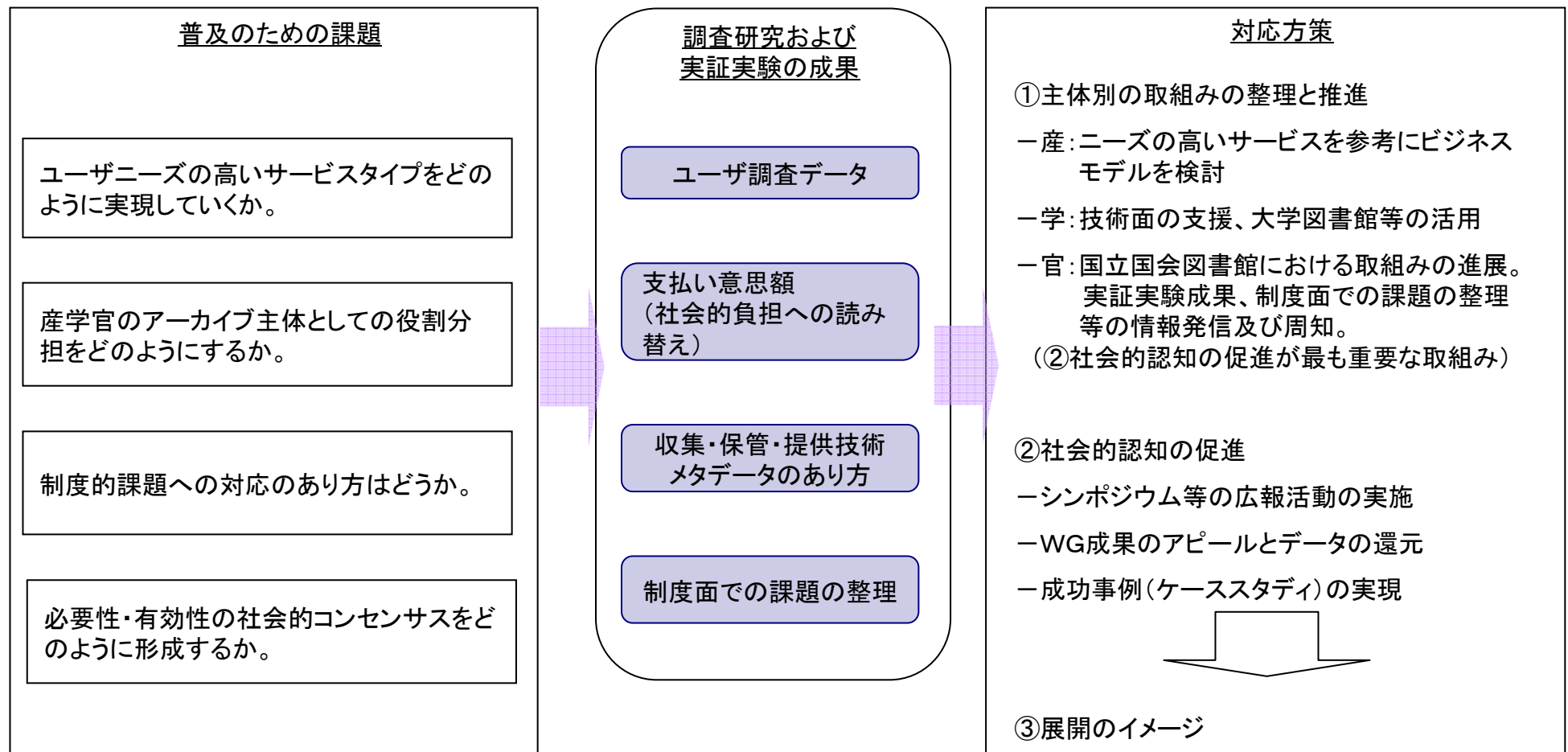
産学官のアーカイブ主体としての役割分担をどのようにするか。

制度的課題への対応のあり方はどうか。

必要性・有効性の社会的コンセンサスをどのように形成するか。

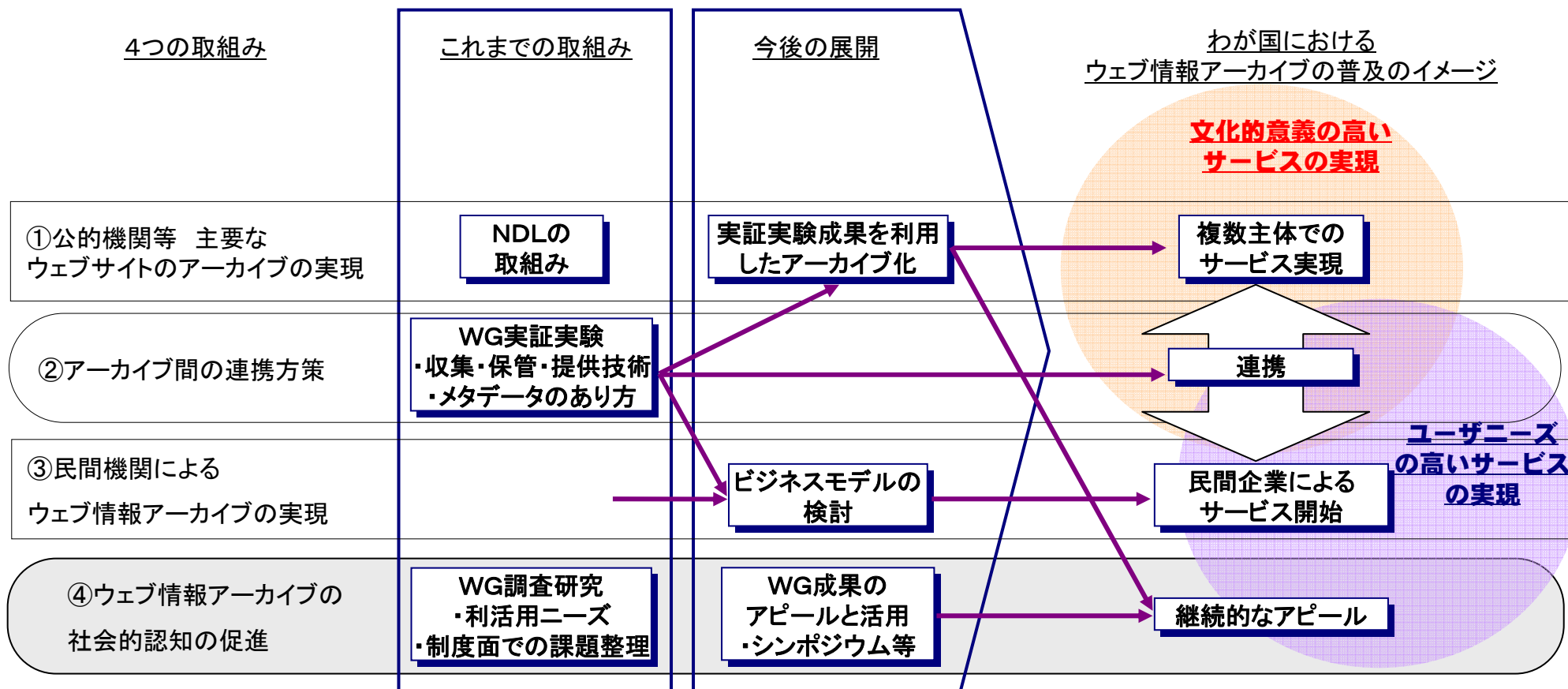
3. ウェブ情報アーカイブの今後の課題の抽出 (2) 課題への対応方策の検討

- 普及のための課題と、これまでのWGでの検討(調査研究及び実証実験等)との関係を整理し、対応方策をまとめた。



今後の展開イメージ

- ウェブ情報アーカイブの実現については、官あるいは学で実現していく公的機関等の主要なウェブサイトのアーカイブ化、ついで民間でのアーカイブ化、それらをつなぐ連携方策の3つの領域が重要。
- 文化的意義、ユーザニーズのそれぞれの実現のため、2年間のWGの成果を活用していくことが必要。
- あわせてウェブ情報アーカイブの社会的認知の促進を図ることが重要。



ワーキンググループ提言案 骨子

- これまでのWGでの議論、調査研究及び実証実験の結果を踏まえた提言を検討。
- 具体的には、以下のような構成とし、社会的認知の促進等に活用できるものとして整理していく。

